

建物の 見どころ

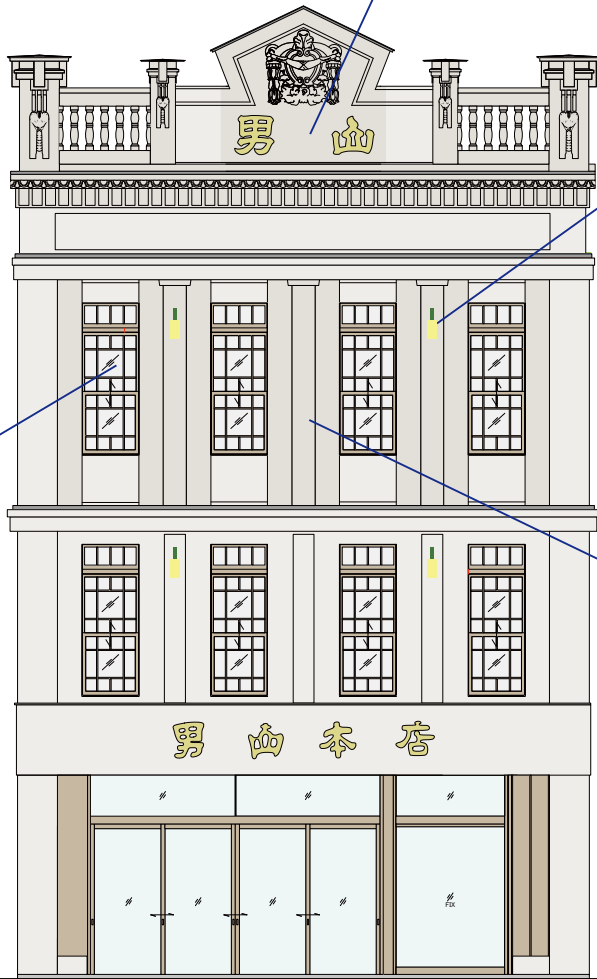
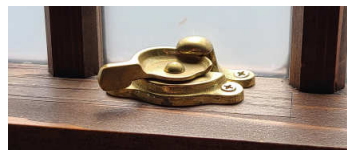
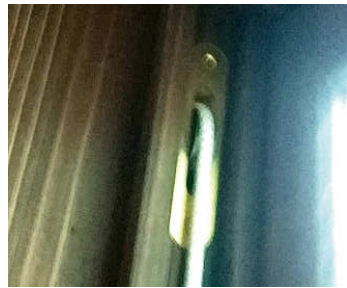
ペディメント・金箔文字

男山本店店舗のシンボルである5角形のペディメントには中央に植物を模ったレリーフがあしらわれている。素材は外壁と同じ室根石砕石洗出仕上で、解体工事の際大きな塊として保存され、補強の后再び屋根に戻された。金箔が押された「男山」の文字は創建当初から残るもので、木材に漆塗りの上に金箔押しで修復された。



復元された2種類の上下窓

窓枠等に残されていた痕跡と古写真から上下（あげさげ）窓が復元された。南面8箇所窓は分銅と滑車を使ったロープ釣りの機構で窓枠の両側に分銅が上下する空間がある。東西面の4箇所窓は出入りする真鍮製の爪に障子が固定されるタイプで、比較的珍しいもの。クレセントや固定用のビスも真鍮製のものが復元された。



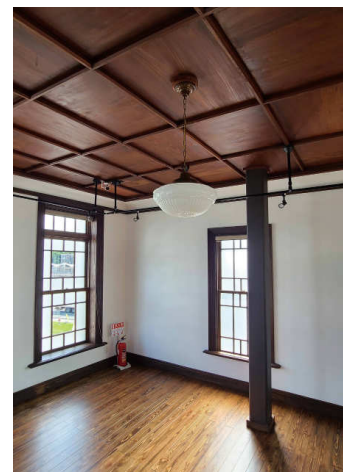
外部ブラケット照明

南面外壁にはブラケット照明が残されており、4つのうち3つはオリジナルの物を修復して設置し1つは新規に制作。ガラス部分は失われていたため、昭和初期の照明カタログを参考に金属部分に合わせて復元した。



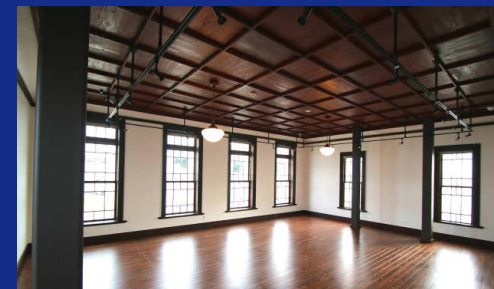
復元された3階の内装

東日本大震災の被害で唯一残された3階部分は、外部、内部ともに創建当初の意匠に復元された。内装の天井材や窓枠等は既存の材料を全て再利用し、白漆喰壁は下地の木摺と共に工法も復元された。室内の鉄骨柱は耐震補強の鉄骨フレームの一部。



外壁仕上洗出・左官の飾り

男山本店店舗の建てられた昭和初期の近代建築に多く用いられる西洋建築の意匠。同じパターンを線上に反復したコーニスや糸巻形状の格子、植物を模ったレリーフなどは全て自然石（室根石）の砕石をモルタルに混ぜ、左官職人が現場で制作。乾く前に水で洗出する仕上。屋根部分の4隅等にあしらわれた柱状の飾りは、アールデコの様式のものであり、当時の建築文化を偲ばせる。



男山本店 再建 の歩み

多くの皆様のご支援で男山本店が再生しました。震災を乗り越えた、建物再建の記録をお届けします。

名称：男山本店店舗 建築年：昭和5年
 (国登録有形文化財・気仙沼市指定有形文化財)
 建築面積：88.1㎡ (26.7坪)
 延床面積：233.7㎡ (70.7坪)
 構造・規模：木造・3階建
 最高高さ：14.88m



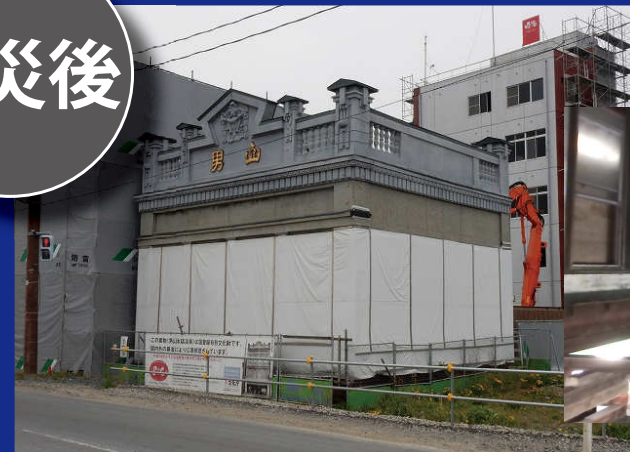


震災前



昭和初期(昭和4年の大火後)の写真

被災後



震災後 SOC 基金によって応急保存



3階内部の様子



震災直後の様子(3階部分のみ残り倒壊)

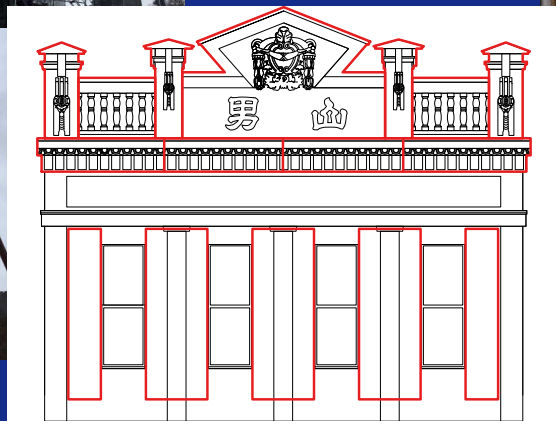
保存解体



ペディメント部分の大ばらし



金箔文字



南面ファサード大ばらしの計画図



部材保存格納の様子



棟札



軸組材保存の様子



コーニス取付↑→

外壁材再取付の為の T 型溝加工



外壁柱飾の修繕



←外壁材再取付の為の T 型鋼設置



↑コーニス飾りの復原制作



ペディメントの吊り込み



外壁材ピンニング補強



格子飾り取付



↑格子飾り復原制作



コーニスの仮組



小屋組の仮組

新補材には焼き印を施す→
木材腐朽箇所の繕い



木材欠損箇所の根継

金輪継による継手



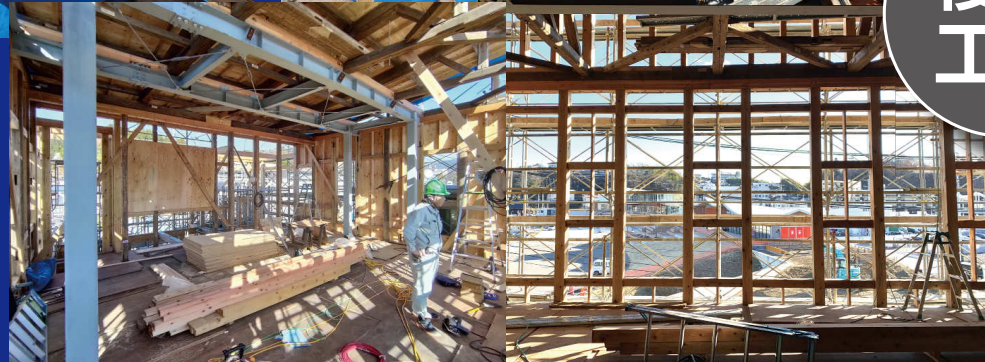
木材端部変形箇所のほぞ改修



上棟時の矢羽根



復原工事



3階部分耐震補強の鉄骨フレームの設置



金箔文字取付

軸組完成

3階内壁漆喰仕上の木摺下地

オリジナル上下窓滑車



南面上下窓の分銅復原



再利用建具の仮組点検